

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 1年 12月 2日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200627		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・八木		
所在地	〒731-0101 広島県広島市安佐南区八木一丁目10番10号 (電話) ①082-830-2588 ②082-830-2117		
自己評価作成日	令和1年10月28日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200627-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和1年11月26日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中で入居者それぞれの個性を大切に、運営理念である「安らぎとよろこびのある日々を、その人らしくいつまでも」を基本として思いやりのある温かいサービスを提供している。また、一人ひとりの意思や能力、人生人格を尊重し入居者の思いに寄り添い、柔軟に対応できるように体制を整えている。行事やお散歩、買物など外出の機会を多く設けている。職員が楽しく働ける職場作りにも気を配っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の周囲は四季折々の風景と近くの公園や遊歩道、店舗などがあり、「人の往来」と「自然」を感じる事ができ、散歩や買い物、挨拶を交わすなど、恵まれた環境を日頃のケアに活かしている。職員は理念の下、一人ひとりの思いや心の動きに寄り添った具体的な声かけや様々な介護技術の研修を重ねており、柔軟で温かな日々になるよう共に過ごしている。玄関の掃き掃除や台所での食事作り等、出来る事に参加しながら、職員との談笑を楽しみ、木製テーブルや畳ベンチなども置いてあり、ぬくもり感のある家庭的な雰囲気となっている。管理者は法人共々、職員を育てると同時に、楽しく働きやすい就業環境になるよう気を配り、明るく話しやすいホームとなっている。その結果、地域や家族の訪問や交流機会が増え、例として近隣保育園から月1回、笑顔いっぱいの園児の訪問交流が3年位前から続いている。

自己評価	外部評価	項目(八木①)		外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います		自己評価	実施状況
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所独自の理念を掲げ、出勤時に復唱し、それに沿ったケアができるように努めている。今後その理念について、達成できているかどうか職員間で評価を行い、見直しを行っていく。	法人理念の下、職員がフロア毎に目標を挙げ、見えやすいフロア正面に掲示し共有している。利用者も職員も喜びや楽しさを感じ、穏やかに笑顔で過ごせるホームを目指す事を意識し、職員会議で日々のケアを見直し、変化と達成度について職員間同士で評価を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の保育園の運動会に見学・参加、ボランティアの慰問などあり。公民館へ行きロビーコンサートや落語を地域の方と一緒に鑑賞している。また買い物や散歩時に挨拶等行い、交流が増えてきている。	地域からの情報を得て公民館コンサート見学や近隣公園の清掃などに参加している。保育所園児との交流や踊り・楽器演奏のボランティア訪問も長年、続いており、地域に根差した事業所となっている。公園や川べりの散歩時には日頃から気軽に挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	「ひなたぼっこカフェ」を開催し、近隣の方やボランティアの方を招き入れることをしている。その他の時でもいつでも見学や相談に応じられる体制を整えている。定期的に近隣の保育園の園児が遊びに来てくれて一緒に手遊びや合唱などする機会がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議を通して、取り組みなどの報告や話し合い、また、勉強会を行い、出席者(入居者・家族や町内会の方など)の意見などを基に外出レクに活かしたりサービスの向上・実践につながるよう努めている。また災害時の対応も話し合い、活かしている。	2か月に1回の会議に、幅広く関係者の方に集って貰うために、開催曜日とその都度、考慮するなどの工夫を行い、情報収集や話し合いを行っている。災害時の対応に関して消防署から助言を得て、職員と意見交換を行い、より具体的で有効な対応策に繋がっている例がある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括支援センターなどにできるだけホームの状況を伝え、随時連携をとってサービスの向上を目指している。	地域包括支援センターから情報を得て、事業所の様子や法人内グループホームの空き状況などを伝えている。「オレンジリボンたすきリレー」の際には事業所前を中継点にする事を依頼され、協力した例がある。また福祉制度の円滑な利用のために行政との連携を続けている。	

自己評価	外部評価	項目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員会議での勉強会や内部・外部研修などで具体的な行為を含め、身体拘束防止について理解し、職員間で共通意識を持ち正しい対応に取り組んでいる。また、定期的に身体拘束適正化検討委員会を開催している。	内部外部での研修や勉強会を続け、職員は高い意識を持って日常ケアを行っている。管理者と職員間でその都度話し合っており、声かけを含め身体拘束は一切行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員会議で定期的に勉強をし常に頭に入れケアにあたっている。内部・外部研修に参加し、細心の注意・防止に努めている。また、職員のストレス解消にも努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	内部・外部研修にて学ぶ機会あり。職員会議などで必要性について話し合うことあり、早めの対応ができるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前には必ず個別面談を行わせていただき、本人・家族様とお会いし話し合いを行うようにしている。契約の前段階で必ず見学をしてもらい、そこで不安などを聞き十分な説明を行い、理解・納得していただけるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議の参加を募ったり、来所時や電話にて定期的に意見などを聞けるよう努め、反映させている。また、入居者の意見を聞く機会も設けている。この度は、家族会の日に運営推進会議を開催し何組かの家族に参加していただいた。	職員は、本人と家族との関係を維持される事を大切にしており、家族からの意見要望をその都度お聞きしている。整容に関してケアに反映させた等の例がある。運営推進会議や家族会においても利用者を含め、要望などを言い易い雰囲気作りにも努めている。	

自己評価	外部評価	項 目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送りや職員会議、また普段から時間のある時に職員から話を聞く機会を持ち、反映させている。	管理者は日頃から職員の意見要望を聴く機会を多く持ち、実現するようサポートしている。ひなたぼっこカフェ開催・誕生日プレゼントの提案・夏期間の入浴回数など、職員からの提案が実現している例が多々ある。またインフルエンザ予防に関しての意見から、濡れタオルを掛けたり加湿器購入に至った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	それぞれに役割をつける、また、資格取得に向けた支援や、目的意識を持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員それぞれの今必要なことを把握し、指導するようにしたり、内部・外部研修に参加できるよう勤務体制を整えられるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	2ヶ月に1度ホーム長会議があり、そこで他の事業所が行っているサービスを知る機会があったり、ホームでの対応やサービスで困っていること悩んでいることなど議題にあげ話し合う機会がある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面談や事前の体験入居を行うことにより、本人の希望や心配事など考慮しながら、信頼関係を築けるようにコミュニケーションを図り、関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族の希望や不安などを十分な時間を取りいつでも話せる機会を設け、信頼関係を築けるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人と家族の必要としている部分をできるだけ見極め対応している。必要時には他のサービス利用も検討している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>本人がしたいこと、できることを見極めながら役割を持ってもらっている。尊敬する気持ちを忘れず一方的な行動を慎みともに助け合う気持ちを大切に接している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時や電話にて家族との情報交換、また相談などできるだけコミュニケーションを図り、関係を築けるよう努めている。また、外出や面会をお願いすることもある。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>友人が面会に来られた際には居室にて談笑していただくように努めている。また、これまで大切にしてきた宗教があり、この度その仏壇を購入し居室内で手を合わせる事ができるようになった方がおられる。その中で再び同じ宗教の仲間と再会しつながりがもてた。</p>	<p>職員は、知人などが引き続き、気軽に訪問しやすい雰囲気になるよう配慮している。また家族の協力にて、馴染みの理髪店や外食に行くなど大切な関係性が継続できるよう支援している。要望と状況により、ドライブ途中で自宅に立ち寄った例もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の人間関係に配慮し、孤立しないよう、席の配置や、食事作り・作品作り、外出などレクを通じて支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	病院のお見舞いや、施設への面会、家族が来所・電話などの関わりがある。また、いつでも相談に応じられる体制をとるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話の中や様子などから一人ひとりの変化に気づき、本人の希望や意見にできるだけ沿えるようにしている。困難な方は、家族に相談するなどし対応している。	日頃の会話から食べたい物、してみたい事などを把握し、誕生日メニューに取り入れ、七夕時の短冊に書かれた内容から話が広がっている。本人が今までの暮らしの中で頑張っておられた事を家族からお聞きし、漢字ドリルや毛糸での座布団作りを支援した例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族に今までの生活歴など伺い、個人ファイル等に記録を残し確認するなど状況を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者一人ひとりのできることを見極め、できることをしてもらおうよう、これまでやってきたことの継続ができるよう努めている。また、それぞれの状態・状況を常に意識し、記録の確認や把握に努め対応するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	普段の業務や毎月の職員会議、また本人の希望、家族との相談、関係者の意見を基に作成を行っている。	計画作成者は職員からも日頃の様子を聞いてアセスメントを行い、医療情報も加味し関係者と話し合い後、ケアプラン作成を行っている。定期的、変化時にモニタリングを行い、食事形態や身体を動かす機会や声かけなど、個別性を重視した計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者の方毎の個別記録に、気づきや本人の主張などを記入し、職員間で共有している。また、それに基づき意見交換や、対応、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個別に買い物や散歩に行ったり、家族に電話をしたりとその時の状況に応じて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の保育園との交流、ボランティアの協力依頼、また、町内会・民生委員の方等と協働できるよう支援している。町内の掃除に参加したり、公民館へボランティアが行う音楽を聴きに行ったりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診時や往診時、また必要時に相談をしたり、指導を受けられるようにしている。	入居時に本人家族の要望で主治医を決める事も可能であるが、全員、協力医療機関を選択されている。日頃の様子は事業所や訪問看護師から主治医に報告し、月2回の往診や昼夜の緊急時対応など、連携を取り易い体制となっている。他科受診は家族協力となっており日課などを調整している。	

自己評価	外部評価	項 目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日頃から訪問看護師や、かかりつけ医の看護師に相談するように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前・入院中に相談員や医療関係者、家族などと密に連携を取り、情報交換や相談を行うようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合を想定し、家族に契約時や早い段階から話し合いを行っている。その意見をもとに主治医や看護師、職員と今後の対応について決定するようにしている。	医療的な対応が必要になった時は、家族、看護師、職員、主治医と話し合い、主治医を通じて適切な対応が出来る機関に繋げるよう支援をしている。契約時やその都度、事業所の指針を説明しながら、本人家族の気持ちに寄り添っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時マニュアルあり。防災訓練を実施し実際に水害や土砂が流れてきた場合を想定し避難誘導を行った。また、非常防災グッズの確認、水や食料の数や場所、内服薬や保険証を避難場所に持参するなどの確認を行った。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回以上主に夜間想定避難訓練を実施し、そのうち1回は消防署より指導を受け、地域の方にも出席してもらうようにしている。また、地域との協力体制も整えている。実際に水害時の避難誘導も行った。	消防や避難訓練時には緊迫感を持って参加し、消防署からの助言や気付きを具体的に話し合っている。非常防災グッズの再確認、入居者居室確認表と居室表札の活用、1階から2階に避難した際の寝床確保、近隣との協力など職員全体で細やかに対策が練られている。	

自己評価	外部評価	項目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳を保ち、プライバシーを配慮した声かけや一人ひとりに合った言葉遣い、対応などを心がけて行っている。	呼び方や声かけ、話のスピードなど具体的な研修を重ね、普段から一人ひとりを尊重した対応を行っている。洋服選びや日頃のちょっとした事も本人に選択して貰うように工夫している。職員間の会話や申し送り時は、名前ではなく部屋番号にするなど、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人ひとりの状態や能力に応じ、できるだけ自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	できる限り本人の希望に応じて、一人ひとりのペースで過ごせるよう、買い物や散歩・ドライブなど支援を行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	散髪や髪染め、服選びを本人の希望に合わせて行っている。また、化粧品を使用される方の支援も行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立を入居者と一緒に考えることもあり、買い物や調理、盛り付け、片付けなど一緒に行っている。季節行事では、工夫を凝らした料理を出すようにしている。誕生日会では本人の食べたい物を提供するようにしている。また、外食や出前の機会もある。	利用者は、献立・買い物・調理・盛り付け・片付けを、出来る範囲で参加しており、職員と共に季節感溢れる食事を楽しんでいる。月に1回はお好み焼きや握り寿司の日があり、また要望によりラーメン店などへの外食機会もある。食の進まない時には、一時パン食にするなど、細やかに「食」支援がなされている。	

自己評価	外部評価	項 目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養を考えしっかり摂取できるよう献立を決めている。また、適宜水分が摂れるようこまめに提供するなどで支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアの声かけ・介助を行い、入れ歯の洗浄も実施している。また、必要に応じて訪問歯科にて口腔ケアや指導も受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>本人の状態や状況に応じて排泄パターンを把握し、トイレの声かけ、誘導、交換を定期的に行っている。</p>	<p>一人ひとり異なる排泄パターンと結果を時系列に記号化し、アセスメントしやすい独自の表を作成し、リハビリパンツが不要になる等の改善例が多々ある。安定したトイレ動作が出来るよう便座傍に可動式の手すりが設置しており、排泄の自立を促す環境となっている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘予防のため、水分や乳製品、繊維質の摂取を献立に取り入れ、運動や腹部マッサージも実施している。便秘気味の方は服薬などで調整している。また、排便チェックを行い、職員が把握できるようにしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>一番に入浴したくないなど、入居者の希望を聞き、可能な限り対応できるようにしている。</p>	<p>週に2～3回の入浴機会となっているが、夏期のみ一部シャワー浴を行い、入浴回数を増やすなど柔軟な対応を行い、個々の要望に応じた入浴となっている。入浴後の爽快感が利用者同士で話題になり易いよう、同日の入浴による席配置とし、入浴に伴う気持ちにも配慮した支援を行っている。職員は、安全で快適な入浴介助技術の研修を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	寝具を清潔(干す・洗濯など)に したり、居室の環境整備、室温 管理を行っている。また、日中 の活動量を増やすなどの工夫を している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬ファイルあり、普段から確 認を行い、変更があった場合な ども確認を行っている。状態も 常に把握し、形状を変えるなど 不明な点などあれば主治医や 薬剤師に相談、また指導を受 けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	食事作りや花の世話、掃除や作 品作りなどそれぞれの得意分野 を見つけ、役割を持って行える よう支援している。個別ケアを 中心にレクや外出などで気分 転換も図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出か けられるように支援している。	できるだけ本人の希望に応じ、 買物や散歩、ドライブ等と出か けるようにしている。また、入 居者の状況に合わせて、家族 の協力の下に行っている。	職員と共に玄関前を掃除しなが ら外気に触れ、希望に応じて近 くの公園や川べりを散歩し季節 を感じて貰っている。ドライブ 、買い物、外食も楽しみとなっ ており、花見や紅葉狩りなどに も出かけている。家族の協力に より、馴染みの理髪店や墓参り に行けるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	欲しいものや必要な物などを 、希望時や買物時などに買える ように支援している。		

自己評価	外部評価	項目(八木①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に合わせて電話をしたり、また定期的に手紙を出すなどの支援を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	温度調整や清掃など細かく行っている。また、季節感のある飾り付けや、展示物など入居者と一緒に工夫を行い、居心地のいい空間を作っている。	共用空間に台所があり、食事の準備の匂いや音を聞きながら家庭的な雰囲気の中で過ごされている。高さ調整可能なお洒落な木製テーブルや木製チェスト、向きを考慮したソファなどにより過ごしやすい空間となっている。話す機会が増えるような席配置にも配慮し個々が居心地良く過ごせるよう環境作りに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自室にて一人の時間を過ごされたり、気のあった入居者同士が穏やかに過ごせるよう、テーブル・席の配置の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今までの環境とあまり変わらないよう、慣れ親しんだ家具など持参してもらっている。また、本人好みの飾り付けや置物などで工夫されており、居心地のいい自室になっている。	使い慣れた家具や時計、カレンダー、また今までと同じく手を合わせる事が出来るよう神棚や仏壇などを持参されている。本人の携帯電話のアラームセットにより、皆で行う体操などに自主的に参加される例もある。個々が大切にされてきた物は職員も同じ気持ちで取扱い、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	椅子など入居者の状態に合わせており、手すりもつけ安全に配慮している。また、各居室に表札をつけたり、トイレなどの表示をし対応している。		

V アウトカム項目(八木①) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	施設理念として、「安らぎとよこびのある日々をその人らしくいつまでも」を掲げ、その実現に向け、利用者様ならびに家族様のご希望に出来る限り沿ったサービスを提供できるよう職員が斉唱し業務にあたっている。地域交流として近隣の保育園との係わり合いを持ち交流を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	交流の深い保育園が行う運動会の見学に招待していただいたり、月に1回訪問してもらい交流会を開いている。ホームで行事(カフェ)をしたときには、近隣の方の参加もあり近隣との交流も行っている。公園へ散歩に出かけることがあるので近隣の方とや園児とあいさつを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議に、町内会の方や民生委員、地域の保育園の先生、地域包括の方に毎回参加いただくことで、利用者様、家族様との交流の場を設けることが出来ている。園児の訪問がたびたびあるので、そこで交流を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者様の現状や実施したイベントの報告、説明を行っている。その際に地域包括支援センターの職員、保育園園長、民生委員、町内会の方々に出席してもらい施設運営の理解を深めている。年に一度家族会を開催しているが、その時に運営推進会議を開催することで家族が参加しやすい方法を取り意見を聞ける環境を整えている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターなどにできるだけホームの状況を伝え、随時連携を取りサービスの向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	虐待・身体拘束のマニュアルも作成している。内部研修や外部研修に職員が参加してその内容をカンファレンス時で発表する事で、職員の共通認識へとつなげている。身体拘束適正化検討委員会の発足、話を元にその実現を目指している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待や人権擁護についての内部研修や外部研修に参加する事で、職員が理解を深めている。その内容についてもカンファレンスで発表を行うことで、研修に参加していない職員にも共通認識できる機会を設けている。身体拘束委員会の実施。その都度不適切なケアが行われていないか確認をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業については認知症高齢者の勉強を行っている。成年後見人制度について学ぶ機会がないが、実際に成年後見人制度を利用されている利用者様がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前には、必ず個別訪問を行い、家族様・利用者様と話し合いの場を設けている。入居が決定した際には、契約書、重要事項説明書を基本とし、理解、納得をして頂けるよう説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族様が来訪された際や電話連絡の際に意見をお聞きして、可能な限り希望に沿ったサービスを提供するよう努めている。その他、年に1回実施する「家族会」では、職員と家族様の交流の場を設けとても有意義な会になっている。		

自己評価	外部評価	項 目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月カンファレンスを開き、職員間の意見交換、サービスの統一・向上を図っている。職員会議は職員が意見しやすい空気作りに努め、日々の業務内容等は利用者様の思いやペースを出来るだけ酌めるよう配慮した意見がでて		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者が職員から、就労するにあたり不安や悩みを聞く機会を作り、出来る限りその解消に努めている。都度、管理者は上司に報告を行い、会社として環境を整えるよう努めている。資格取得への適度な促しやリーダーなどに昇格する機会をつくるなど、さらなる向上心や責任感などを持ってもらえるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ひなたぼっこ全体で行う社内研修を毎回違うタイトルで行っており、職員はその研修に参加できるような体制を取られている。外部研修にもできる限り参加してもらうよう計画をして行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	2ヶ月に1度ホーム長会議があり、そこでケアについての事例検討を行うことが出来る。そのほか、外部の研修に参加した時などに他の事業所のケアについて聞きだすことをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時には、あらかじめ家族様や介護支援専門員・相談員より本人様の情報を集め、職員が利用者様の情報を共有できるようカンファレンス等で説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設見学や面接時に利用者様・家族の思いを聞きだし、あらかじめサービスの内容に反映させている。施設の説明をしっかりと行い、理解して頂いた上で、出来る限りの不安を取り除き、要望等に対応できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前には、介護支援専門員や家族様(キーパーソン)としっかりと話し合い、本人様のニーズに合わせたアセスメントを行い、職員が情報を共有できるよう連絡ノートを活用や毎月のカンファレンスで話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員には利用者様の状態や心理状態を考慮した対応を行えるよう教育し、ご飯作りや洗濯物、掃除など時間がかかってたとしてもご自分でできることはなるべくしていただくよう支援するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様との関係については、入居時に説明を行っているほか、ケアプランの中にも、「家族様との関係の維持」という項目をいれてる。生活用品など連絡して持ってきていただき、長い期間、家族様の訪問がないようなことにならないように気を配っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	年末には外泊され、住み慣れた自宅で家族様と過ごされる事がある。その他、馴染みのお店に散髪や外食に行かれるケースもある。昔の友人が定期的にホームへ訪問してくれている。		

自己評価	外部評価	項 目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	定期的にダイルームの配席の見直しを行い、同じ趣味を持った方やお話しの合う方を同じテーブルにしている。散歩や行事で外出するときにも仲の良い方で行けるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族様に連絡をいれ、退去後の生活状況を伺い、相談事があれば、話を聞き入れサポートを行うようにしている。退去後に家族様がボランティアとして来てくれることがある。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様との時間を大切にし、出来るだけ会話をすることにより個々の思いや希望を取り入れるよう努めている。お酒が禁止の方には正月や花見、その他のイベントの時にノンアルコールビールで雰囲気を楽しむ喜んでいただけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、本人・家族様と面談を行い生活歴や生活環境の情報を収集している。その他、担当の介護支援専門員や相談員より情報を入手するなど行っている。日々のケアの中でも情報が得られるようコミュニケーションを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎月のケアカンファレンス時に、管理者・職員間と話し合い、利用者様一人ひとりの検討を行い、サービスの向上・統一に努めている。リスクなど考慮しながら、利用者の身体レベルの現状維持を考えて出来ることを探して実行している。記録をその都度行い職員が共通認識が出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者様、家族様、関係者様の意見を出来る限り取り入れるよう、日々職員が利用者様から思いを聞き出すことに努めており、毎月のケアカンファレンス時に、管理者や介護職員が話し合いを行い計画を作成するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	基本的にはケアカンファレンスで介護計画を立てていくが、日々のケアの中で気づいた点は細かに記録し必要があれば管理者へ報告している。申し送り時にでた問題などもその都度修正し、職員が統一したケアができるよう連絡ノートなど使用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族様が怪我や病気でホームへなかなか来られなくなった時には、普段持参いただく日用品や本人が購入したいものなど、職員が代行して購入する。その際、なるべく本人様と一緒に出掛けるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティアの方を招いて劇やマジック、音楽演奏をして頂いている。秋にある保育園の運動会には毎年、来賓として参加させていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2週間毎に、協力医の先生に往診して頂いている。事前に利用者様の状態、ニーズを報告し、お薬の調整をもらっている。血液検査やレントゲンも定期的に行っている。体調不良時には、24時間連絡が取れる体制を設け、いつでも指示がいただけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	2週間におきに訪問看護の往診があり、利用者様の状態を報告している。利用者様が直接体調について看護師に相談も行えているケースもある。24時間対応なので夜間の体調不良時や転倒しけがした時に連絡を入れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を病院へFAXするか持参している。認知症の有無について最近聞かれることが多いため、どの程度の進行度かも伝えて対応してもらっている。退院時にも病院の看護師や相談と連携し、退院時の状態や内服薬、気を付けることなど聞くようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	「重度化した場合の指針」は、入居時に家族様に説明しサインをいただいている。常時、医療行為が必要な場合は、ホーム内の対応は難しい為、協力医に相談し入院先の手配、援助を行っているようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者の急変に備え、マニュアルを作成している。新しい職員にはマニュアルを使用し教育も行っている。内部研修で救命講習を実施し職員全てが参加するようになっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	ホーム内で年二回以上、夜間想定避難訓練を実施している。その際に実際に「火災通報専用電話機」を使用した訓練も行っている。その他、近年の土砂災害をうけ災害マニュアルを作成し職員に周知をしている。災害時の研修や訓練も行っている。		

自己評価	外部評価	項目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	信頼関係を築くため、言葉かけや呼称には気を付けている。グループホームという場所を理解したうえでの声掛けを配慮し対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	編み物や天風録・塗り絵などそれぞれが自由に日々過ごされている。レクの参加など利用者様の希望に対し出来るだけ個別対応している。食事に関してはあえてメニュー表を作らず、利用者様の希望の食事を取り入れることができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様のやりたいこと、出来ることをしっかりと職員が把握し、ご自分のペースで生活をして頂いている。必要に応じて声かけを行うが貼り絵、編み物、食事作りなど個々の対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理容師に来て頂き本人の意向でカットをしてもらっている。洋服もなるべく選んで頂くようにしている。毎朝、くしで髪をとかれたり、顔そりをされたりできている。男性は毎日朝髭剃りの声かけの支援を行っている。家族様に本人様の化粧品の購入を依頼し、身だしなみやおしゃれに支援できるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日、食事の盛り付けをしていただいている。旬の野菜を取り入れることで季節を感じていただくよう心がけている。毎月、お好み焼きや握り寿司を注文しホームで食べていただける機会を設けている。おやつのにファミレスへ出かけ好きなものを選んで食べてもらえるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者様の食事量を毎日記録し、毎月体重を測定し推移を観察している。食器の大きさを工夫しなるべく食べてもらえるようにしている。糖尿病の為、食事量の制限がある方についても、それぞれ職員が把握し支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの見守り、必要に応じて介助を行い口腔状態の保持・改善を行っている。訪問歯科にかかられている方は口腔衛生をみてもらってケアできている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄については、量、質、形状を確かめ、毎回グラフ化している。その習慣に合わせてケアすることが出来ているので、失禁の回数も軽減できている。夜間については、尿量に合せたパッドの使用やトイレへの誘導を行い、本人様の負担も軽減できている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表により、利用者様の個々の排泄の習慣を把握し、トイレ誘導を行う様になっている。便秘の方は、医師に相談し、利用者様に合った処方をしてもらい対応をしている。排便を促す為、毎朝ヨーグルトを提供したり、お茶も工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴回数表を作成し、毎日記録することで入浴回数の把握をしている。拒否のある場合などについては、声かけを工夫し気持ちよく入浴して頂いたり、入浴日を変更するなどして対応している。ゆずや入浴剤を使用する事で変化を出している。湯船の嫌いな方はシャワー浴対応などしている。		

自己評価	外部評価	項 目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安心 して気持ちよく眠れるよう支援して いる。</p>	<p>利用者様のペースで生活して頂けるよ う、個々の生活パターンの把握に努め ている。夜間の睡眠の妨げにならない 様、声かけを行っている。また、室内 の温度にも気を配り1日の入眠時間を 大切にしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的 や副作用、用法や用量について理解 しており、服薬の支援と症状の変化 の確認に努めている。</p>	<p>協力医に、隔週で往診に来てもらい、 そのときの利用者様の状態の変化や利 用者の希望などを報告し、薬の調整を 行っている。全利用者の最新の薬情を ファイルし職員がいつでも閲覧・確認 できる環境を整えている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせ るように、一人ひとりの生活歴や力 を活かした役割、嗜好品、楽しみご と、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>利用者様の趣向に合わせて、残存機能 を保持できるよう支援する為、日常の 生活で行う、食事や、洗濯物、掃除な ど本人の活躍できることを見つけ、自 信につながるよう生活支援をしてい る。外出の好きな方は散歩や買い出し に積極的に出てもらっている。塗り絵 など個々にあったサービスを行う事 で楽しんでいただいている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそつ て、戸外に出かけられるよう支援に 努めている。また、普段は行けない ような場所でも、本人の希望を把握 し、家族や地域の人々と協力しなが ら出かけられるように支援してい る。</p>	<p>近くに公園があるので、暖かい日など は数名でお散歩を楽しんだり、車での 買い物に付き添って頂いたりしてい る。食事やおやつなども外食をして楽 しんで頂いている。お花見や紅葉狩り などの行事で、季節を感じていただけ るよう支援している。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切 さを理解しており、一人ひとりの 希望や力に応じて、お金を所持した り使えるように支援している。</p>	<p>お金を持っておくことで安心につなが ることを職員が理解している、認知症 があるため物とられなどの症状、実際 にお金をなくしてしまう可能性がある ことを家族様に理解してもらったうえ で、多額でない金額を持つことが出来 るようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(八木②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話をお持ちの方は自分でメールをされ家族様と連絡を取り合っている。お持ちでない方はホームの電話を使用してもらうことにしている。皆さんで年賀状を作成し投函する支援を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設の雰囲気を抑え、極力家庭的な雰囲気を演出し、利用者様が戸惑わないよう配慮を行っている。採光については、自然の光に触れて頂けるよう、採光窓も設置している。壁には季節感を感じていただけるような貼り絵の作品や飾りで演出をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様の個々の趣向や話の合うもの同士、生活のペース、身体レベルを職員が把握し、カンファレンス時に話し合い、ダイルールの配席は定期的な見直しを行い、利用者様同士が支えあえる環境作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様が生活しやすいよう、出来るだけ馴染みのある家具を使用して頂き、居室の環境整備に努めている。また、家族様の要望も聞き入れ、利用者が主体的に生活出来るよう配慮を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ内の手すりを増設したり、広さも車椅子のまま中へ入ることが出来る。施設内では壁に手すりを設け、安全に歩行して頂けるような設備を整えることで、自立した生活を営んで頂いている。暖かいお茶がいつでも飲める様ダイルーム内にポットを設置している。		

V アウトカム項目(八木②) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひなたぼっこ・八木

作成日 令和2年1月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域とのつながりを深めるために努めているが、事業所で行う避難訓練に地域住民や家族などの参加が少ない。	事業所で行う避難訓練に近隣の住人や利用者の家族に参加して頂く。	避難訓練への参加の呼びかけ。	1年
2	3	運営推進会議への近隣の方の参加者が少ない。	運営推進会議へ近隣の方や関係者の参加して頂く。	運営推進会議で勉強会を開催し、今より参加しやすい環境を整える。	1年
3	13	火災時や水害時にむけた訓練や研修会の開催回数が少ない。	火災時の避難訓練か研修会を年間4回、水害等の防災訓練か研修会を年間2回開催。	年間計画を立て実施し、研修会なども含めて開催回数を増やし職員の教育に努める。	1年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。